

健全育成シリーズ (113)

「一番の生き方指導は」



先日、知人と外出し、遅くなった時のことです。JRの駅には人影もまばらでした。ちょうどその時、東京方面から電車が入ってきました。こんな遅い時間帯だから人はほとんど乗っていないだろうと思って見ていると結構降りのです。若い人もいましたが、ネクタイを締めたちょうど小学生や中学生の親ぐらしい年代の人も多く混じっていました。「これから家に帰って夕飯を食べたりするだろうがたいへんだな」と思いました。たぶん明日も朝早く出勤するだろうから「こんなに遅いと、家族と話ができるだろうか。子供と話をするだろうか?」と思いました。

以前の一時期と比較し、今は時間的に余裕が出てきた時代だと言われていますが、では、この一週間ぐらいを振り返ってみて、どのくらい家族に話しかけたでしょうか。思い出してみてください。

親が子供と話をすることの大切さというと思ひ出される
ことがあります。
それは幸一くん(仮名)という
子の話です。幸一くんは中

学三年生になるまで部活動に熱中し「家ではほとんど勉強をしません」とお母さんを嘆かせているような子供でした。ところがある時、「僕はお父さんのような仕事をした。だから工業高校に進学する」と言い出し、急に机に向かい始めたと言うのです。それにはお母さんも驚きました。自営業の父親の仕事は、かなり大変で、納期に間に合わせるため夜遅くなることもありました。そんな姿を身近に見ていたので、親の仕事嫌い絶対と同じような仕事はしなないと思っていたからです。

それを聞いた直後はよく世間で言う「子供は親の背中を見て育つ」という諺の様な話と聞いていました。昔は(かなり昔のこと)家で仕事をしている両親を見ていた時代がありました。だから、その苦労する後ろ姿を見て子供は育ちました。そんな例の現代版だと思っていたのです。

ところが、それは思いこみで少し違っていました。お父さんと話す機会があり、よく聞いてみたところ照れながら「本当の理由は分かりませんが、私は息子にかなり仕事の話をします。苦労していることや、新しい仕事があった時、その製品をどうやって作るか考えていることなどです」と言うのです。お父さんは子供に

仕事の話を実によくしていたのです。幸一くんは聞いてみるとそんな時「お父さんは楽しそうだ。仕事の苦労なんかないみたいだ」と言うのです。

どちらかと言うと真面目で仕事一筋で、「趣味も無い自分ですから、息子に仕事以外になかなか話が無いのです」と謙虚ですが、実際は見えない努力をしていたのです。

数年前ですが山梨県下の中学校の三年生を対象に進路に関するアンケート調査をしたことがあり、その時、その生徒の親にも協力していただき回答してもらいました。アンケート項目の中に「親として実際の自分の職業や生き方について子供に話をしたことがありますか」という質問をしました。その結果は「たびたびある」という回答が十四%、「時々ある」が五十八%、「ほとんど無い」が二十五%、「無い」が三%でした。

「たびたびある」と「時々ある」を合計すると約七十%の親は「子供に自分の職業や生き方を語っている」ということです。思ったよりずっと多い感じがしました。

親の苦労や親の悩み、生き方、職業観など、全てと言うわけには行きませんが、機会をつくりさりげなく話すのも良いのではないのでしょうか。それが親として一番の「生き方指導」ではないでしょうか。

伝言板

大月保健所

大月市大月町花咲1608-3

☎(22)7824

痴ほう性老人家族会 「銀杏の会」のご紹介

単なる老化現象ではなく、脳の障害が原因で起こる「痴ほう」。

全国では百三十万人の患者さんがいるといわれています。

そして、痴ほうにかかった

方の介護はとても大変で、悩

み・苦しみ・疲れ・将来への

不安を抱いてしまうものです。

痴ほう性老人家族会「銀杏の

会」では、痴ほう性老人を介護

している者同士が悩みを打ち

明けあったり、介護に関する

お役立ち情報を交換したり、

また、地域に痴ほうの正しい

理解を広めたりといった活動を

しています。

痴ほう性老人の介護のこと

でお困りの方家族の方はいら

っしゃいませんか?

是非お気軽にご連絡くだ

さい。

問合せ

大月保健所保健指導課内

「銀杏の会」事務局

☎(22)7827

「飲酒について 考えましょう」

我が国の成人一人あたりの飲酒量は年々増加し、ビール大瓶に換算して年間約二七四本の消費量となっています。

酒は、アルコールという脳を麻痺させる薬物が含まれていて嗜好品です。私たちは、有害な飲み方は避けなければなりません。

大量飲酒者の増加により心身の病気はもちろん、家庭内暴力や職場の生産性低下、交通事故などの問題が引き起こされています。

最近では未成年による飲酒がみられますが、私たちもそれを見逃してしまっているのが現状です。将来多くの依存症者が生まれる可能性があります。

これを防ぐには、健康教育の中で、飲酒の危険性について社会的合意をつくり、親が子供の飲酒に気づき飲ませないことが大切です。

ご家族の中で一度飲酒について考えてみましょう。

年間約274本
飲み過ぎ注意!

